

〔日本山海名物圖繪〕美濃釣柿

まぶ柿のいまだ熱せぬうちに取て、皮をむき、糸を付て竿にかけ日にほす也安藝國西條ぎおん坊、其味すぐれたりといへども、美濃つるしよりちいさし、美濃は味はひよきのみにあらず、其形甚だ大なり、ほし上げて三寸ばかりの長さなる柿あり、其生の時の大さ思ひやるべし、くし柿ころ柿も皆まぶ柿を以て拵ゆる也、串柿は丹波よりおほく出、ころ柿は山城宇治名物也、

〔美濃名細記〕十一賀茂郡峰屋村産一蜂屋柿、鉤枝柿、ホサル、時ニ回リ七八寸、シト云重百錢目計、其味格別ニシ

テ風味輕シ、江戸獻上、始ニ生熟柿、後爲釣柿再獻上、

〔倭名類聚抄〕二十黒柿。楊氏漢語抄云、柿心久呂加木、俗用、黒柿、或説、是柿木、心黒處名也、爲近於俗、別以置之、

〔箋注倭名類聚抄〕十下總本處下有名字、廣本同、下總本別以置之、作別用黒柿二字也、黒柿見掃部式、

〔和漢三才圖會〕八十三黒柿。柿詳于山果類、

按黒柿即山中棹柿シツカ木心也、黒色光澤密理堅硬爲器甚美、以亞鐵刀木カヤサシ烏木ウツク但嫩木則色不光、鐵刀見

柿雜載
〔新撰姓氏錄〕大和國皇別、柿本朝臣

大春日朝臣同祖、天足彦國押人命之後也、敏達天皇御代、依家門有柿樹、爲柿本臣氏、

〔三代實錄〕三貞觀元年七月十九日壬申、雷雨震内教坊柿樹、

〔日本紀略〕一延喜九年閏八月十五日、此月也、東西兩京桃、櫻、李、柚、柿、藤皆花、或實、

〔宇治拾遺物語〕二むかし延喜の御門の御とき、五條の天神のあたりに、大なる柿の木、の實ならぬあり、その木のうへに佛あらはれておはします、略下

〔元亨釋書〕五慧解、釋皇慶、姓橘氏、黃門侍郎廣相之曾孫、略中、甫七歲登叡山、近山下有柿樹、絶不結子、俗